

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第27回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2014年 3月 27日(木)～ 3月 30日(日)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 東京体育館 他
参加者 工藤 由佳	所属地区名 帯広地区
講師 Aグループ 田中 光夫 氏、福岡 敏徳 氏	
実技研修、座学研修等の記録 ○プレゼンテーション(ウォーミングアップ) ○ハーフコート分解練習(2パーソンで3on3、5on5) ・4原則を生かすための協力 ・原則どおりにいかない場面での素早い対応 ・なぜ動くのかを考えて動く ・確認するために見に行く意識 ○モデルゲームを使用した3パーソン研修 主審 比嘉氏(沖縄県) 副審 武藤氏(茨城県) 工藤 講評 田中 光夫 氏 ・ボールを中心に見てしまっている。自分のエリアを見ること。 ・プレーを確認できる位置取りを。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 3月 28日 (金)	対戦カード 福岡 vs 愛知 (女子)
主審 神奈川県 長谷川 裕 氏 (A級)	副審 工藤 由佳
ゲーム前のカンファレンス内容 ・2人の視野の分担、リードが右へ行く場面、ポストの守り方に対する2人の協力、手の使い方や体の寄せ方、オールコートディフェンスへの対応について確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 奈良県 大野 哲広 氏 (A級) ・リードで右に行き確認するタイミングが遅いことがあった。予測をしてもう少しはやくするとよい。 ・お互いの審判が確認できていない質の悪いプレーがあった。 ・時間がとまっているときの選手の管理。	
ゲーム感想 大会初日の好カードを担当させていただいた。お互いのチームが力を出し合ってナイスゲームになるように臨み、1ゲーム通して二人で協力することができた。チームのディフェンススタイルに応じてエリアの分担等について二人で話をしながらすすめることができたのは良かった。しかし、講評でもあったように、コートで起きていたことを審判員が2人とも把握していない場面があったのは反省すべき点だった。ゲームの早い段階でチームのスタイルや選手のプレーの質を読み取り、その後の展開やゲームの雰囲気を感じ取りながら判定していくことも必要だと思った。	
実践実技2 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 3月 29日 (土)	対戦カード 兵庫 vs 千葉 (女子)
主審 工藤 由佳	副審 宮城県 高平 吉康 氏 (新規A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・二人の視野の分担。自分のエリアを責任を持ってしっかり見ること。 ・自分のエリアや目の前であってもスペースによっては見づらい場面が出てくるので、そのときの協力について。 ・3・4番エリアやリードが右に行く場面について。 ・つねにアイコンタクトを取りながらすすめること。 ・ゲーム中も気になることがあればカンファレンスをして修正していくこと	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 滋賀県 加藤 加織 氏 (新規A級) ・トレイルのとき、ダウンする動きに加え、内側にペネトレイトする動きが必要。その踏み込みがなかったために、スペースをとらえられていないときがあった。 ・ベンチで2人のコーチが同時に立ち続けている場面があったので、ベンチ管理については毅然と対応するべきだった。	

ゲーム感想

主審として多くのことに気を配りながらゲームに臨んだ。試合中も相手審判と話をしながらすすめたが、エリアの分担について修正しきれなかったことが反省点。最終局面でのスペースのとらえ方が甘い部分があり、スペースを予測した細かい動きがもっと必要であると感じた。また、講評でもあったように、ベンチ管理についてはルール通り毅然とした態度で臨むべきであり、自分の課題である。主審として、ファウル、トラベリングともに基準をもっと明確に示す必要があった。

まとめ

今回でこの大会に参加させていただくのも3回目となりました。A級審判として活動してから1年近く経ち、昨年とは違った心持ちでコートに立ちました。これまで学んだことや実践してきたことをオン・ザ・コートで表現し、最終日のゲームを担当することを目標に大会に臨みました。結果として最終日の割り当てをいただくことはできませんでしたが、自分の課題を改めて認識することができました。それは、担当したゲームをどのように運営し、管理するかということです。ひとつひとつの判定もちろん大切ですが、それのみにとどまらず、ゲーム全体をとらえたマネジメント力が必要であると実感しました。

しかしながら、今自分もっている力を最大限に発揮し、担当したゲームを終えられたことは自信につながりました。今後も日頃の実践を積み重ね、1つ1つの笛の重みを感じ、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、努力していきたいと思えます。

最後に、このような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。